

リーディングDXスクール事業【実践事例】

新地町立福田小学校（福島県）【指定校】

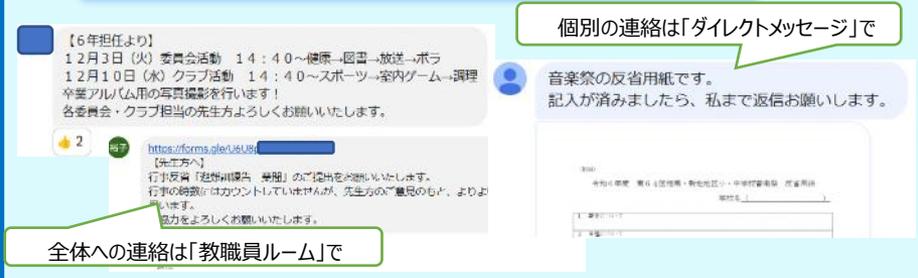
【取組内容④】 教員の働き方改革につながる校務DXの推進

会議の資料は「Classroom」に



職員会議や教育課程編成に関わる資料等、職員全体に関わる要項・資料は「Classroom」にアップロードすることで、印刷、丁合の手間がなくなった。また、いつでも端末から内容を確認できるようになり、利便性が大きく向上した。

全体、個別の連絡は「Chat」で



全体への連絡は「教職員ルーム」で

個別の連絡は「ダイレクトメッセージ」で

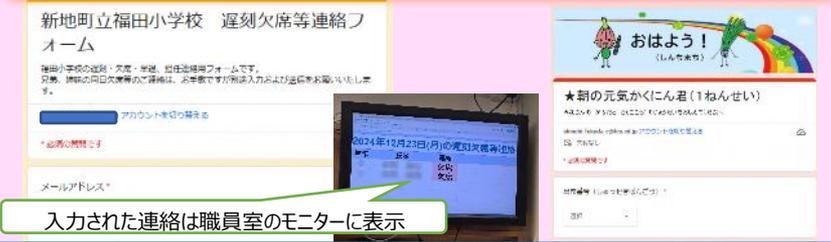
「chat」を活用することで、瞬時に連絡事項を共有できるようになった。文字として残るため、あとから見返すことですぐに内容の確認ができた。個別の連絡や必要なファイルの転送も「ダイレクトメッセージ」で送受信することができる点も大変便利であった。

アンケート、行事反省は「forms」で集約



学校評価等の各種アンケートや、行事の反省の入力、集約に「forms」を活用した。結果をすぐにスプレッドシートに出力して共有することができ、集計に関わる時間を大幅に短縮することができた。紙媒体で行っていた時には、集めた回答の管理にも気をつかう必要があったが、その必要がなくなった点も非常に大きく感じている。

欠席連絡、健康観察にも「forms」を活用



入力された連絡は職員室のモニターに表示

朝の欠席等の連絡にも「forms」を取り入れたことで、朝の電話対応に時間を取られることがなくなった。連絡は職員室のモニターに表示され、各担任も教室から端末で欠席連絡をすぐに確認できるようになったことで登校確認にかかる時間を大きく短縮することができている。本町では児童の健康観察にも「forms」を取り入れており、担任や養護教諭が気になる回答をしている児童にすぐに声かけを行えるようにしている。